

令和5年度森ノ宮医療大学卒業式式辞

卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。本学教職員一同および在校生を代表して、心からお祝いを申し上げます。また、学生生活を支えてこられたご家族、ご親族の方々もさぞやお喜びのことと存じます。本学へのご理解、ご協力に心から感謝し、お祝いを申し上げたいと思います。そして、本日の卒業式挙行にあたり、御来賓の皆様におかれましては、平素の御指導・御支援に感謝申し上げるとともに本日の御臨席に厚く御礼を申し上げます。

本日は、保健医療学部7学科、そして大学院、助産学専攻科、合わせて438名が卒業されます。厳しいカリキュラムを優れた成績で修了した皆さんの努力に、心から敬意を表します。本学は開学後16年というまだ若い大学ではありますが、これまでに2914名の卒業生を輩出し、その多くが皆さんの先輩として医療現場で活躍されておられます。先輩に続き皆さんも、森ノ宮医療大学卒業生としての誇りをもって、医療に、そして社会に貢献していただけることを切に願っています。

さて、皆さんは、これからいよいよ、生涯を通じて、医療分野と深く関わっていくことになります。医療というのは言うまでもなく、人間の生活の中で欠かすことができない、非常に重要な分野です。皆さんは今、気候変動による異常気象、地震などの大きな災害、未知の感染症のパンデミック、またあるいは、多くの命が奪われる国家間の紛争、このような事態が多発する、極めて不安定な時代を生きています。世界中で多くの命が危険にさらされ、そのあらゆる場面において、医療は人が生き抜くための基盤を提供するものです。まずは医療従事者であることに誇りを持ち、奉仕の精神を忘れることなく、自己研鑽を怠らず、社会にしっかり貢献してください。

医療現場における皆さんコメディカルの役割、これは大変大きなものです。皆さんが思っている以上に大きなものかもしれません。病院や高齢者施設あるいは在宅医療に至るまで、様々な医療現場におけるコメディカルの質、それはその医療現場の質を支える大きな要素です。もちろん、医師のスキル・最新の医療機器の配置なども重要ではありますが、特に患者の満足度に直結するものとしてコメディカルのスキルは大変重要なものです。患者の不安に寄り添いしっかり傾聴し対応する、QOLの高い、豊かな人生に直結する心身機能の回

復を担う、あるいは、正確な検査所見や画像データ、高度な医療機器の操作で確かな診断と安全な治療を支える、これらは皆さん医療専門職の役割であり、このことが医療現場の質を担保し、患者の満足度に大きく貢献します。医師とはなかなか話せないという患者も、定期巡回時、リハビリ中、検査の前後、あるいは施術中、そういう時に、皆さんと話せることでホッとしたとおっしゃいます。皆さんは医療現場のかなめです。自らの職種に自信と誇りを持ち、医療現場で活躍されることを願ってやみません。

さて、皆さんが向き合う医療、これは、今、日々進歩する科学技術が流入し、凄まじいまでの変革の中にあります。再生医療や創薬の進歩、ロボット技術による先進的外科手術、診断治療へのAIの活用など、未来の医療と思われていたものが現実のものとなりつつあります。特にAIの発展には目をみはるものがあり、近い将来、医療現場でも診断・治療の多くをAIが担うかもしれません。それでは医療職は不要になっていくのか。これは大変不安に感じるのですが、しかし、医療において、人間でないとできないことは確かにあります。ITやAIの発展、確かにこれは患者に大きな福音をもたらしますが、しかし一方で、患者と同じ空間に立ち、触れ合い、話し合い、同じ時間を共有することの大切さが揺らぐことはありません。バーチャルではなく、そういうリアリティのある接し方の中で、共感と信頼が生まれ、患者の安心につながり、医療水準を高めることになります。医療の本質は、科学技術の発展の中であってなお、人間同士の繋がりであることは、皆さんもよくご存じのことと思います。

皆さんは、NBM、Narrative-based Medicineという言葉をご存じでしょうか。ナラティブとは物語。すなわち「物語と対話に基づく医療」と訳されます。患者が皆さんとの対話を通じて語る病気の経緯、病気について今考えていること、これまでの人生、価値観、家族。患者それぞれの物語に目を向け、患者の抱える問題に全人的アプローチをすること、それこそが、“患者に寄り添う”ということです。根拠に基づく医療であるEBMとこのNBMは決して対立する概念ではありません。いずれも患者や家族の権利、価値観、多様性を尊重しつつ、患者中心の医療を実現するために両輪として機能すべきものです。科学的な目と患者に寄り添える人間性。将来AIが医療の主流となる時代がたとえ来たとしても、このふたつを合わせ持つすばらしい医療人であってほしいと願っています。

さて、皆さんは今日、様々な困難を克服し、旅立ちの日を迎えました。友と過ごした学生

生活、尊敬できる師との出会い、知識を得る喜びや達成感、様々な思いが皆さんの胸を去来していることと思います。本日、大きな一歩を踏み出そうとしている皆さんを見ることは、森ノ宮医療大学教職員一同の大きな喜びであり、そして何より、ご家族の皆様の大きな誇りでもあらうと思います。あまり休む間もなく、4月からは1医療人あるいは1社会人となりますが、これまで支えていただいたご家族への感謝を忘れることなく、これからは社会という大きな世界で、皆さんが活躍されることを期待しています。

最後になりましたが、卒業生の皆さんの今後の大きな飛躍と素晴らしい人生をお祈りするとともに、本日ご臨席頂いているご家族、関係者の皆様に、本学へのご支援に深く感謝申しあげて、式辞の結びと致します。本日は、ご卒業、誠におめでとうございます。

森ノ宮医療大学 学長 青木元邦